

第2回

郷土史調査研究発表会

茨城偕行会事務局長

佐々木 克徳 陸自71

茨城偕行会は、平成29年1月30日(月)、第2回の郷土史調査研究発表会を、陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地において実施した。

会場となった霞ヶ浦駐屯地には、陸上自衛隊の後方支援業務を主任務とする関東補給処、陸上航空部隊のパイロット、整備員を養成する航空学校霞ヶ浦分校、首都圏の防空を担任する航空自衛隊第3高射隊等が配置され、本部地区、飛行場地区、朝日分屯地から成っている。

かつては海軍霞ヶ浦航空隊の基地として、昭和4年に飛行船ツエツペリン伯号が寄港した広大な駐屯地で、筑波山や霞ヶ浦を望む風光明媚な地域に所在する。

今回の発表会は、駐屯地の絶大な支援・協力を得て、前段は駐屯地会議室で修親会員と共に、郷土史等の調査研究成果を聴講した。後段は、航空学校霞ヶ浦分校の保有する航空機(ヘリコプター)等装備品の展示説明を受けた。参加者は、原善昭会長(陸自57)以下、26名であったが、前段の発表会に

は、関東補給処長兼霞ヶ浦駐屯地司令金丸章彦陸将(陸自83)以下、約60名の駐屯地修親会有志の聴講が行われた。

駐車場として指定された儀仗(パレード)広場に到着した参加者は、逐次会場となるB庁舎5階会議室へ案内をされた。なお、本駐屯地は、湯原弘副会長(陸自68)、高野愈己氏(陸自事務官)をはじめとする多くの会員に勤務の経験がありで、当時を懐かしむ声盛んに聞かれた。



行事に先立ち、原善昭会長、金澤孝一副会長(陸自58)が、金丸駐屯地司令に表敬訪問を行い、発表会への支援や協力、修親会聴講等のお礼を述べた。茨城偕行会員等と修親会有志の参加者で満員の会場では、10時に企画担

当の太田保重幹事（陸自71）が、本日の全般予定や注意事項等を説明し、定刻通りに開始された。

前段の第1部は、山根峯治副会長（陸自70）による「陸軍航空部隊（茨城県内）に関わる記念碑等の調査概要」について発表が行なわれた。

講師が調査研究を始めたきっかけは、地元に関係する先人たちの偉業を、後輩へ語り継ぐのが自分たちの使命と感じたためであり、今回は、県内3カ所の陸軍飛行場周辺の調査結果を発表した。

陸軍水戸飛行場周辺では、水戸陸軍航空通信学校や明野陸軍飛行学校分校及び、昭和19年6月に編成された常陸教導飛行師団等に関わる記念碑の由来について説明された。

また「つばさの塔」建立由来と地元隊友会那珂湊支部によって維持管理されている現況について。陸軍銚田飛行場周辺では、銚田陸軍飛行学校顕彰碑の建立や管理状況と会員の坪沼浩氏（陸自01期）の案内で確認した当時を偲ばせる史跡（官舎や監的施設等）の現況。

また陸軍最初の特別攻撃隊として銚田で編成された「万葉隊」の比島への進出、出撃に関する秘話等について。

陸軍西筑波飛行場に関連しては、珍しいグライダー部隊（滑空飛行第1戦

隊）や重爆撃機（飛行第62戦隊）の特別攻撃戦、記念碑の状況等について、豊富な資料とプロジェクターを駆使した説明・発表が行われた。

荒川憲一氏（陸自73）から、当時の陸軍航空部隊の天測航海能力について質問が出る中、「今後とも毎年1度は、県内各所の記念碑等を巡り、先人の偉業を思い起こし、語り継ぎたい」との締め言葉に、参加者一同深く得心させられる思いであった。

前段の第2部は、金澤孝一副会長による「坂東武者の祖、常陸平氏（常陸南部での650年）」を拝聴した。

前回からの常陸の武将シリーズの続編であり、平安時代の「平将門の乱」前後の常陸平氏の活動を中心とした内容であったが、乱平定後の中央への進出と伊勢平氏（平清盛）の勃興、地元常陸に残留した平氏の歴史、武田信玄に繋がる甲斐源氏の祖が、ひたちなか市の武田荘（施設学校近傍）に所在することや、霞ヶ浦駐屯地近傍の阿見町、龍ヶ崎市等が伊達藩領（仙台）の飛び地であったことなど、地元に関係する興味深い話を聞くことができた。

最近の調査で、茨城県が魅力度ランキング最下位となっているが、「源氏平氏をはじめとする素晴らしい武将の多くを輩出した常陸の国を思うと残念である」との講師の言葉に、参加者一

同苦笑しつつ、強い共感を覚えた。後段の装備品展示は、13時に用意されたバスで霞ヶ浦飛行場地区に移動。整備格納庫内において分校の教育概要や保有装備等の説明を受けた。その後、4個グループに分かれて、分校が保有する6種類のヘリコプターのうち、A H1S、OH1、UH1H、CH47Jの4機種について説明を受けた。特に今回展示されたCH47Jは、東日本大震災の折、福島原発へ最初の空中散水を行った機体であり、御岳山噴火や一昨年の常総地区の水害等、災害派遣におけるヘリコプターの活躍が話題になることも多く、参加者の関心は極めて強かった。

現役当時の装備と比較し、進歩・変化している部分を確認して感心する



姿、陸墓勤務等で装備品導入に関与した当時の思い出話を交え懐かしそうに説明に聞き入る姿が散見された。

14時、装備品の研修を含め、計画された全ての行事を終了。参加者一同再会を約して、駐屯地を後にした。

今回の発表会が、事業の目的である先輩達の思いを引き継ぎ、後輩たる現職自衛官へ伝えることを一つの形として実現できたことは、大変有意義であったと思う。

企画担当グループや、色々お骨折りいただいた駐屯地関係者に感謝申し上げます。なお後日、発表会の模様を霞ヶ浦駐屯地広報室前に写真とともに掲示紹介されたことを申し添えておく。

上記以外の参加者は、次のとおり。

- 井元潔（陸自58）、福井正躬（陸自60）、奈良崎信一（陸自60）、水越美知（陸自61）、成田博明（陸自64）、森房正和（陸自68）、中久喜勉（陸自72）、和知勲（陸自72）、河野廣行（陸自74）、坂本憲昭（陸自75）、平野誠司（陸自76）、樋口達哉（陸自86）、荻沼蔵次（陸自准尉）、木村和雅（陸自事務官）、野口通夫（陸自事務官）、澁谷澄子（陸自父兄）、鷹巢美津子（陸自父兄）。